

被服製図表現上の調査 (第1報)

——尺度・文字・線について——

中 里 喜 子

(昭和58年9月26日受理)

Investigation on the Indication of Clothes Drawing (Part 1)

—The Scale, Letter and Line—

Yoshiko NAKAZATO

(Received September 26, 1983)

I はじめに

日本の被服製図は、各式、各様の表規法がなされていた。茶道や華道に流派があるように、お家流を作り出し、それを伝えていくのが教育であった。特に洋裁という名称で、外国からの取り入れ方、日本での発達の方法は、それぞれに異り、一面それがライバル意識となって服装界が今日のようなレベルに上昇出来たわけで、その実績は大いに称えるべきであろう。

近年、既製服が店頭にあふれ、また市販のパターンの数も増し利用者も多くなっている。そして既にパターンがコンピュータで処理されているのである。

機械・電気・建築などの製図は JIS による制定が昭和27年になされ¹⁾、全国的、世界的に共通な分野をもっているが、日本の被服製図は遅れ、昭和53年9月にやっと JIS による標準化がなされた²⁾。

この標準化のために微力を尽し、土台として調査したものを記録しておくことにより、歴史的にみた被服教育の過程の一端となるものと考え、まとめたので報告する。

II 調査方法

婦人・子ども服20種、男子服40種について昭和49年現在使用されている教科書および機関誌を資料とした(表1)。

調査事項は表2の通りである。

各資料について調査事項毎に表示方法を分析した。

被服衛生学研究室

III 調査結果

1 尺度

(1) 尺度の単位

婦人・子ども服、男子服とも100%が「cm」を使用していた。メートル法に伴い、「吋」の使用はすでに見られなかったが、「mm」の使用も被服の素材となる布地の性質上、伸び縮みの差が考慮されるので用いられず、「cm」の使用が徹底していると考えられる。

(2) 尺度の記入方向

よこがきは1例を見るのみで、たてがきは98.3%の使用率であった。機械製図などには、よこがきが多いのであるが、被服製図独特のものである。

2 文字

男子服では100%が数字とアルファベットによる表示方法をとっている。婦人・子ども服では95.0%がひらがなと漢字による文字を製図上に記入し、外来語はカタカナで記入している。婦人服の中で1例だけ、男子服の影響を受けて研究された流派において、ひらがなと数字とアルファベットによる表示方法をとっていた。この数字やアルファベットは直接に寸法を示すものでなく、解説文と読み合わせる意味の記号である。

その数字については75°傾いたもの・ストレートなもの・ゴシック体・イタリック体など18種にもおよぶ書体が使用されていた。

アルファベットについても11種におよぶ書体が使用されていた。

中里 喜子

表 1 調 査 資 料

No.	著者名	書 名	発行所	年月	No.	著者名	書 名	発行所	年月
1	マイライフ編	マイライフ	グラフ社	46.6	31	永田一雄	洋 装	洋 装 社	41.11
2	杉野芳子	洋裁(ドレメ)	鎌 倉	46.4	32	中村広高	〃	〃	〃
3	田中千代	洋裁高等科	婦人生活	44.2	33	井関久夫	〃	〃	〃
4	奈良女大	新編被服Ⅰ	実 教	46.1	34	本田典康	〃	〃	41.12
5	成田順也	被服Ⅰ最新	中 教	46.2	35	海野末弘	〃	〃	42.1
6	家 政 大	洋裁精義	家政教育	33.5	36	井上 勉	〃	〃	42.5
7	日本女大	被服Ⅰ三訂	実 教	46.1	37	磯島定二	〃	〃	46.1
8	羽仁説子	実教技術・家庭	実 教	〃	38	浜 賢	〃	〃	42.11
9	全職教協	技術・家庭	開 隆	45.12	39	伊藤亮一	〃	〃	42.12
10	文化服装	文化服装講座	文 化	46.1	40	八田 章	〃	〃	43.1
11	野口益栄	文化式婦人服	光 文	46.3	41	今井文治	〃	〃	43.4
12	主婦と生活	ママが作る幼児服	主婦と生活	〃	42	加藤三蔵	〃	〃	〃
13	稲毛美代子	子供服の作り方	文 化	〃	43	武田昭吾	〃	〃	43.11
14	高橋春子	パターン作図法	家庭教育	42.2	44	竹之内節二	〃	〃	〃
15	梶山藤子	被服構成	広 川	42.3	45	土居敏之	〃	〃	〃
16	成田・石毛	被服工作	同 文	44.3	46	福岡正次	〃	〃	〃
17	メイS・青木	洋裁全書	新 樹	37.5	47	山田 敏	〃	〃	〃
18	主婦の友	洋裁全書	主婦の友	43.2	48	加藤好孝	〃	〃	〃
19	長谷川正子	洋裁	ジャノメ	46.4	49	崔 景雄	〃	〃	43.12
20	伊東茂平	洋裁研究	婦人画報	47.2	50	坂本典博	〃	〃	44.4
21	南 徳 見	洋 装	洋 装 社	38.2	51	宇都宮万造	〃	〃	45.3
22	高木淳一	〃	〃	41.1	52	小林守治	〃	〃	46.7
23	菊池桂之助	〃	〃	41.6	53	後藤祥夫	〃	〃	45.6
24	目崎国治郎	〃	〃	41.7	54	南部克夫	〃	〃	45.7
25	望月真晴	〃	〃	〃	55	上原崇市	〃	〃	43.12
26	石川群一	〃	〃	〃	56	津坂友治郎	〃	〃	47.5
27	石川栄治	〃	〃	46.5	57	岡戸喜光	〃	〃	46.3
28	別所 昇	〃	〃	41.11	58	田代克己	〃	〃	46.5
29	鄭 景文	〃	〃	〃	59	植木孝芳	〃	〃	47.4
30	南部克夫	〃	〃	〃	60	倉橋 力	〃	〃	〃

表2 調査事項

1	尺度
(1)	尺度の単位
(2)	尺度の記入方向
2	文字
3	線
(1)	線の形による種類
(2)	線の太さによる使用目的
(3)	線の用途による種類および太さ
a	前仕上り形状線
b	後仕上り形状線
c	案内線
d	想像線
e	返り線・折山線
f	“わ”に裁つ線
g	見返し線
h	中心線
i	ステッチ線
4	寸法単位の記入方法
5	作図中に示す表示記号
a	ハッチング
b	等分線
c	角度
d	直角
e	地の目
f	ダーツ
g	たたんで切り開く
h	芯地
i	のばす
j	追込む
k	いせる
l	線の交差
m	型紙を続けて裁つ
n	片ひだ
o	箱ひだ
p	タック
q	バスト・ポイント
r	釦穴の位置
s	(飾り) 釦の位置

3 線

(1) 線の形による種類

婦人・子ども服の場合は、実線・破線・点線・一点鎖線とこの4種類を使用したものが20例中16例で80.0%，実線・破線・点線の3種類を使用したものが2例で、10.0%，実線・破線・点線・一点鎖線・二点鎖線の5種類を使用したものが2例で10.0%ある。

男子服の場合は、非常に作図が単調ですっきりとしているが、実線だけを使用しているものが、40例中19例で47.5%と多く、実線と破線の使用が6例で、15.0%，実線と点線の使用も6例で15.0%，実線と一点鎖線が3例で7.5%，実線・破線・点線と3種類を使用したものが2例で5.0%，実線・点線・一点鎖線の使用が2例で5.0%，実線と二点鎖線が1例で2.5%，実線と破線と一点鎖線が1例で2.5%であった。

(2) 線の太さによる使用目的

a. 細い線（0.3mm以下）

表3 線の太さの使用目的；細い線

表示記号	婦人・子ども服			男子服			婦人・男子平均		
	数	%	順位	数	%	順位	数	%	順位
案内線・中心線	4	20.0	2	27	67.5	1	31	51.7	1
案内線	13	65.0	1				13	21.7	2
案内・折山・中心	2	10.0	3	9	22.5	2	11	18.3	3
案内・中心・ステッチ				4	10.0	3	4	6.7	4
なし	1	5.0	4				1	1.7	5
計	20			40			60		

表4 線の太さの使用目的；太い線

表示記号	婦人・子ども服			男子服			婦人・男子平均		
	数	%	順位	数	%	順位	数	%	順位
仕上り形状線	17	85.0	1	1	2.5	5	18	30.0	1
裁断線・仕上り形状線				17	42.5	1	17	28.3	2
裁断・折山・仕上り形状線				9	22.5	2	9	15.0	3
裁断・折山・想像・仕上り形状線				8	20.0	3	8	13.3	4
裁断・想像・仕上り形状線				4	10.0	4	4	6.7	5
想像線・仕上り形状線	2	10.0	2				2	3.3	6
見返し線・仕上り形状線	1	5.0	3				1	1.7	7
折山・想像・仕上り形状線				1	2.5	5	1	1.7	7
計	20			40			60		

表5 線の太さの使用目的；中間の太さの線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服			婦人・男子平均		
	数	%	順位	数	%	順位	数	%	順位
想 象 線				8	20.0	2	8	13.3	2
折山・想像線				7	17.5	3	7	11.7	3
説 明 線	5	25.0	1	1	2.5	6	6	10.0	4
折 山 線	2	10.0	3	3	7.5	4	5	8.3	5
見返し・説明線	3	15.0	2				3	5.0	6
折山・説明線	2	10.0	3				2	3.3	7
ステッチ線				2	5.0	5	2	3.3	7
見返し・折山線	1	5.0	5				1	1.7	9
見 返 し 線	1	5.0	5				1	1.7	9
補正する線	1	5.0	5				1	1.7	9
芯地・説明線	1	5.0	5				1	1.7	9
見返し線 折山線・説明線	1	5.0	5				1	1.7	9
中心線 折山線・説明線	1	5.0	5				1	1.7	9
案内・中心・ 折山・返り線	1	5.0	5				1	1.7	9
持 出 し 線				1	2.5	6	1	1.7	9
想像線・ ステッチ線				1	2.5	6	1	1.7	9
折山線・想像線・ ステッチ線				1	2.5	6	1	1.7	9
な し	1	5.0	5	16	40.0	1	17	28.3	1
計	20			40			60		

表6 前仕上り形状線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服			婦人・男子平均		
	数	%	順位	数	%	順位	数	%	順位
———太	19	95.0	1	40	100	1	59	98.3	1
———太 -----中	1	5.0	2				1	1.7	2
計	20			40			60		

婦人・子ども服の場合は、案内線（基礎線）に65.0%
細い線が使用され、男子服の場合は、案内線・中心線に
67.5%使用されている。（表3）

b. 太い線（0.8mm）

婦人・子ども服では、仕上り形状線に85.0%，男子服
では裁断線と仕上り形状線に42.5%，裁断線・仕上り形
状線・折山線に22.5%使用されている。（表4）

表7 後仕上り形状線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服			婦人・男子平均		
	数	%	順位	数	%	順位	数	%	順位
———太	12	60.0	1	38	95.0	1	50	83.3	1
———太 -----太	8	40.0	2				8	13.3	2
———太 - - - - -細				1	2.5	2	1	1.7	3
———太 - - - - -中				1	2.5	2	1	1.7	3
計	20			40			60		

c. 中間の太さの線（a. b の中間）

婦人・子ども服では説明図に25.0%，見返しと説明図
に15.0%，折山線に10.0%などというように使用されて
いる。男子服では想像線に20.0%，折山線・想像線に
17.5%などというように使用されている。（表5）

線の太さによる使用目的は、ある種の傾向が示されて
いるが、細い線の使用目的は4種類、太い線の使用目的
は8種類であるのに比較して、中間の太さの線の使用目
的は、17種類におよんでいることが、分析された。

(3) 線の用途による種類および太さ

a. 前仕上り形状線

太い実線の使用が、婦人・子ども服で95.0%，男子服
で100%である（表6）

b. 後仕上り形状線

婦人・子ども服では太い実線の使用が60.0%，太い実
線と破線の使用が40.0%である。（表7）

c. 案内線

婦人・子ども服では細い実線の使用が45.0%，細い実
線と破線の使用が45.0%であり、男子服では、細い実線
の使用が85.0%である。（表8）

d. 想像線

婦人・子ども服では、想像線が資料の中に見当たらない、
言い換えれば、想像線を使用しないものが80.0%である。
男子服では中間の太さの実線が47.5%，太い実線が32.5
%も想像線として使用されている。婦人・子ども服と男
子服の製図がそれぞれ特長をもっていることが、はっき
りと分析できる。（表9）

e. 返り線・折山線

男子の場合は、細い実線が32.5%，太い実線が32.5%，
中間の太さの実線が27.5という使用状態であり、実線と
いう共通点を持っているが、婦人・子ども服においては、

表8 案 内 線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服			婦人・男子平均		
	数	%	順位	数	%	順位	数	%	順位
———細	9	45.0	1	34	85.0	1	43	71.7	1
———細細	9	45.0	1	3	7.5	2	12	20.0	2
-----細	1	5.0	3				1	1.7	3
-----細細				1	2.5	3	1	1.7	3
-----細				1	2.5	3	1	1.7	3
-----細細細				1	2.5	3	1	1.7	3
-----細細細				1	2.5	3	1	1.7	3
な し	1	5.0	3				1	1.7	3
計	20			40			60		

表9 想 象 線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服			婦人・男子平均		
	数	%	順位	数	%	順位	数	%	順位
———中				19	47.5	1	19	31.7	2
———太				13	32.5	2	13	21.7	3
77777777太				1	2.5	4	1	1.7	4
———細	1	5.0	2				1	1.7	4
-----細中	1	5.0	2				1	1.7	4
-----太	1	5.0	2				1	1.7	4
-----中	1	5.0	2				1	1.7	4
な し	16	80.0	1	7	17.5	3	23	38.3	1
計	20			40			60		

その使い方が16種類にもおよび、線の種類だけでなく、折り山線・折り線・折り返し線・折り山などの説明が記入されている例が見られる。（表10）

f. “わ” に裁つ線

男子服は太い実線で100%表現されているが、婦人・子ども服の場合は、12種類の方法で表現している。総じて破線で表現する傾向にあるが、更に“わ”と説明が記入されている例を多くみることができる。（表11）

g. 見返し線

男子服には、見返し線の記入は100%ない。婦人・子ども服は、中間の太さによる一点鎖線が30.0%、太い線による一点鎖線が10.0%、これには見返し線という説明

表10 返り線・折山線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服			婦人・男子平均		
	数	%	順位	数	%	順位	数	%	順位
———細	1	5.0	3	13	32.5	1	14	23.3	1
———太				13	32.5	1	13	21.7	2
———中				11	27.5	3	11	18.3	3
-----中	3	15.0	1				3	5.0	5
-----太	1	5.0	3				1	1.7	6
／＼折り山——細	1	5.0	3				1	1.7	6
／＼折り線——中	1	5.0	3				1	1.7	6
折り山線——細	1	5.0	3				1	1.7	6
-----太細	1	5.0	3				1	1.7	6
／＼折り返し線——細	1	5.0	3				1	1.7	6
／＼折り山線——中	1	5.0	3				1	1.7	6
1折り山線——細	1	5.0	3				1	1.7	6
／＼折り目線——中	1	5.0	3				1	1.7	6
-----中	1	5.0	3				1	1.7	6
1折り山線——細	1	5.0	3				1	1.7	6
-----太中	1	5.0	3				1	1.7	6
折り山線——細中	1	5.0	3				1	1.7	6
／＼折山——中	1	5.0	3				1	1.7	6
-----中	1	5.0	3				1	1.7	6
-----太中				1	2.5	5	1	1.7	6
な し	2	10.0	2	2	5.0	4	4	6.7	4
計	20			40			60		

が加えられている。同じく中間の太さが10.0%、細い線が10.0%という状況である。（表12）

h. 中心線

婦人・子ども服は10種類にもおよび表現方法を使用しているのに対して、男子服においては4種類にまとまっている。細い実線の使用が婦人・子ども服55.0%、男子服87.5%と大半を占めている。（表13）

i. ステッチ線

ステッチ線は、その使用をしないものが多いのであるが、その表示記号は、婦人・子ども服では5種類、男子服は3種類であって、男子服と婦人・子ども服との使い

表11 “わ”に裁つ線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服		
	数	%	順位	数	%	順位
———太	4	20.0	1			
-----太	4	20.0	1			
——— <u>わ</u> ——太	2	10.0	3			
——— <u>わ</u> ——太	2	10.0	3	40	100	1
——— <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
----- <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
----- <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
-----中	1	5.0	5			
——— <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
——— <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
——— <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
——— <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
——— <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
——— <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
——— <u>わ</u> ——太	1	5.0	5			
計	20			40		

表12 見 返 し 線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服		
	数	%	順位	数	%	順位
———中	6	30.0	1			
——— <u>見返し線</u> ——太	2	10.0	3			
——— <u>見返し線</u> ——中	2	10.0	3			
——— <u>見返し線</u> ——細	2	10.0	3			
——— <u>見返し線</u> ——細	1	5.0	6			
——— <u>見返し線</u> ——細	1	5.0	6			
——— <u>見返し線</u> ——細	1	5.0	6			
——— <u>見返し線</u> ——太	1	5.0	6			
——— <u>見返し線</u> ——中	1	5.0	6			
なし	3	15.0	2	40	100	1
計	20			40		

方には共通点のないことが興味深い。（表14）

Ⅳ 結 び

男子服と婦人・子ども服とは、歴史的に見ると、異った径路で発達し、日本人の日常の衣生活に普及されてきているので、被服製図1つとってみても、それぞれの持ち味があり、規格化するためには、お互いの産業面（メ

表13 中 心 線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服		
	数	%	順位	数	%	順位
———細	11	55.0	1	35	87.5	1
——— <u>前中央線</u> ——中	1	5.0	2			
——— <u>前中心</u> ——中	1	5.0	2			
——— <u>前中心</u> ——細	1	5.0	2			
——— <u>前中心</u> ——細	1	5.0	2			
——— <u>前中心線</u> ——細	1	5.0	2			
——— <u>中心線</u> ——細	1	5.0	2			
——— <u>前中心</u> ——中	1	5.0	2			
——— <u>後中央</u> ——細	1	5.0	2			
——— <u>中</u> ——中	1	5.0	2			
——— <u>細</u> ——細				2	5.0	2
——— <u>細</u> ——細				2	5.0	2
——— <u>細</u> ——細				1	2.5	4
計	20			40		

表14 ス テ ッ チ 線

表示記号	婦人・子ども服			男 子 服		
	数	%	順位	数	%	順位
——— <u>ステッチ幅=0.5</u> ——細	3	15.0	2			
——— <u>0.5ccステッチ</u> ——細	2	10.0	3			
——— <u>ステッチ幅(1~1.5)</u> ——細	1	5.0	4			
——— <u>ステッチ</u> ——細	1	5.0	4			
——— <u>0.8ステッチ</u> ——細	1	5.0	4			
——— <u>細</u> ——細				1	2.5	4
なし	12	60.0	1	33	82.5	1
計	20			40		

ーカー），教育面（教師）での理解がなくてはならない。これらの実情をふまえた上で昭和53年9月に規格化がなされた。今日実態を更に調査し続ける中で、幾分の変化は見られるが、まだ完全に普及実施されているとは言えない。

V 参考文献

- 1) 清家 正：製図通則 JIS Z 8302 (1952)
 - 2) 吉田 元：被服製図通則 JIS L 0203 (1978)
 - 3) 吉田 元：衣生活研究 2, 3・4 (1975)
- 本調査研究は、昭和48年10月、日本家政学会第25回大会にて口頭発表を行った。
-